

国鉄当局の杜撰性を暴露！

五月二十七日、「五五・一〇ダイ改」計画提案の団体交渉が行われた。今回の「五五・一〇ダイ改」計画提案は、単なる「時刻改正」ではなく、第一に国鉄三十五万人体制攻撃という名の合理化施策の初年度としての具体的実施計画であること、第二に四・一五津田沼事件を中心とする労働組合間の問題に介入し、勤労千葉への選別的不当処分を策動するという、いわば、国鉄当局の側から一方的に労使関係を破壊して行くという情勢のもとでの提案であるという点、に最大の特徴がある。勤労千葉は、以上の認識にもとづき、各支部代表も参加する中で、重大な決意をもって団体交渉に臨んだ。

不当処分策動に職場からの激しい怒り集中、交渉一時中断！

交渉は、運輸部長をはじめ、関係課長などが出席する中で千葉鉄道管理局団交室において十時に開始された。

冒頭、組合側より、

① 「五五・一〇」は極めて重要な問題であり、労働組合の了解と協力なしには実行できないという立場から、団体交渉で計画を提示すると理解する。であるとするならば、今日国鉄当局が、八〇春闘に対する不当処分、さらには四・一五「本部」反動分子のスト破り襲撃を口実に勤労千葉への選別的不当処分を策動するということは、当局の側から一方的に労使関係を破壊するということであり「協力を求める」という姿勢とは受け止められなう。

② とりわけ、「四・一五」を口実とする明確な不当労働行為をもってする選別的不当処分を出すとするならば、一切の労使関係を国鉄当局が一方的に破壊するものとして重大な決意をもって対処する。

の二点について、「五五・一〇」概要提案をする前に見解を明らかにすることを強く迫った。

これに対し当局側は、

① 処分問題については結論が出ていない。現時点では、何も言えない。

② もしそうだったとしても今まで通り協力されたい。

というのみに終始したため、十二時十五分、組合側は、明確な当局見解を示すまで交渉を一時中断することを通告した。

全く根拠のない列車廃止！ 燃料増送強行はなんのため？

十五時四十分、「千葉局として不幸な事態にならないために最大限の努力をする」という見解表明をもって交渉は再開され、当局側より、本社計

画、千葉局計画が提案された。組合側より、①過去の事前説明の内容に比べて貨物関係の列車廃止キロが増となっていること、②臨貨についての廃止が事前説明では出されていないこと、③五四・一〇時改時に確認したジェット燃料列車を昼間帯に移行する件について、五五七〇列車だけでなく五五六八列車も移行すべきである。④また、五五七〇列車の移行については、信号機移転等五四・一〇で確認された必要事項は全て整備されているのか、等々の追及が行われた。

これらの質疑応答の中で当局側より、「タンク車製造が間に合わないの、昨年十一月実施した増車分のタンク車については、必要性がなくなつたので、これを減車して使いたい」との見解が表明されたため、各支部長をはじめ、激しい怒りが爆発した。

そもそも当局は、昨年十月・十一月、二波のストを構えてまで勤労千葉が反対したにもかかわらず、一方的に増送を強行したものであった。

しかも、一〇・二二・一一・一の二波のストライキに対し、中野書記長解雇を含めた大量不当処分を強行してきたのだ。

その上で、たった半年後に「増便の必要はなくなった。公団は一日四千八百キロリットルで足りる」と言っている」とは何事か。無責任の極みであると同時に、昨年末に行われた不当処分が、いかにデタラメかつ、意図的な勤労千葉組織破壊介入を主眼に行われたものであるかをありありと示している。

勤労千葉は、激しく当局を追及しこのように無責任であると同時に、露骨な勤労千葉への敵視路線に裏づけられた、このような「五五・一〇」提案を受けるわけにはいかないということを通告し、交渉の席をけって退場した。

選別的不当処分粉砕へ向けて、国鉄三十五万人体制粉砕へ向けて、闘いはいよいよ正念場である。より一層の団結を固めて決起してゆこう。